

# 令和4年度 学校自己評価システムシート (武南中学校)

目指す学校像	豊かな人間性の確立を目指し、学力の向上、健康な心身の育成を図り、志を高く持ち、21世紀の社会に貢献できる自主・自立・自学・協同の精神に満ちた生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 授業の充実・指導改善 2 開かれた学校づくりの推進 3 高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底 4 自己実現を図るための指導の徹底 5 豊かな人間性を育む教育の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 3名
-----	----------

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標					令和4年度評価(2月24日現在)	
番号	評価項目	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次への課題と改善策	
1	授業の充実・指導改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究を一層進め授業改善を図る。</li> <li>生徒が基礎・基本を身に付けるための指導方法の改善を行う必要がある。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る必要がある。</li> <li>ICTを活用した授業を展開する必要がある。</li> <li>英語の4技能を統合した授業の工夫・改善。</li> <li>他校の情報を得る機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業見学週間を活用し相互に授業参観を行い、意見交換を行う。</li> <li>管理職全員による授業観察を実施し、教職員にフィードバックする。</li> <li>協働学習の取り組みなど、授業方法の研究を行い、授業改善を図る。</li> <li>インターネットを通して生徒同士が情報共有をして学習に取り組む仕組みを活用する。</li> <li>「コミュニケーション」英語や「UCD アドバンス」英語、Basic Advancedの活用を図る。</li> <li>他校を訪問し優れた授業や先進的な授業法を学び自らの授業実践に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業見学週間による相互の授業観察の回数と意見交換の内容等。</li> <li>管理職による授業観察の回数とフィードバックの内容等。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業が行われているか。</li> <li>インターネットを通して生徒同士が学習に取り組む仕組みを活用しているか。</li> <li>「コミュニケーション」英語や「UCD アドバンス」英語等の活用で英語への興味・関心が高まったか。</li> <li>他校への視察の回数と研修会等への参加状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業観察を25時間行い自らの授業を振り返り授業改善に役立てた。</li> <li>年度当初教頭が1時間、年内に校長・教頭で1時間授業観察を行い助言及び意見交換を行った。</li> <li>約半数の教員がiPadで、生徒同士が学びあう機会を設け、効果的に活用した。</li> <li>ネイティブ2人の環境下での授業で積極的に英語の活用を図る機会となった。</li> <li>増大付中、広尾学園、玉川学園、筑波中、緑園小等で視察を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校教員による他校視察や授業研究は積極的に取り組んでいる。今後は、教科横断的な授業研究の研修を実施し、授業改善につなげたい。</li> <li>主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業や生徒同士が学習に取り組むシステムを適切に活用し、生徒の思考力、表現力を身に付けさせる。</li> <li>「コミュニケーション」英語や「UCD アドバンス」英語から、新しい英会話プログラム「Bunan Innovation」を開発し、英語力の向上につなげる。</li> <li>今後も学校視察を積極的にを行い、教員の指導力の向上を図る。</li> </ul>	
2	開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開、学校説明会、入試体験会を通して教育活動を実施している。</li> <li>近隣小学校や中学校との交流や接点が少ない。</li> <li>ボランティアや地域貢献活動等に参加する機会を積極的に取り入れる。</li> <li>学園だよりを発行することで武南中学校の魅力を広げ周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に積極的に周知する。</li> <li>近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等を実施する。</li> <li>地域の自治会や麻市と連携し、積極的に生徒を派遣する。</li> <li>HPや学園だよりの発行の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開や学校説明会、入試体験会を保護者や地域に周知できたか、その回数等。</li> <li>近隣の中学校との生徒会の交流や小学校へのサポート等が実施できたか。</li> <li>地域の自治会や麻市と連携し、生徒を派遣できたか。</li> <li>HPや学園だよりの充実が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開1回101名、学校説明会9回422組、767名、入試体験会2回198組365名参加。</li> <li>コロナの取組が見込めず、近隣の学校との交流できなかった。</li> <li>緑園コミュニケーションセンター「桜いっぱい作品展」に生徒を派遣できた。</li> <li>HP更新を適宜行うとともに、学園だより10回発行、市内小中、公民館に配布し本校の理解に努めた。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開を積極的に行うとともに、学校説明会や入試体験会の工夫改善を図り、地域や小学生、保護者に本校の教育活動を理解してもらう。</li> <li>緑園コミュニケーションセンターだけでなく、地域との交流を通して、地域から愛され、信頼される学校づくりを推進する。</li> <li>HPの改善を図るとともに学園だよりを発信する。</li> </ul>	
3	高い学力と知性と教養を身に付けるための学習指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での学習時間を確保できない生徒が多く学力の伸びが緩やか。</li> <li>基礎・基本を身に付けさせるための指導を徹底する必要がある。</li> <li>予習、授業、復習のサイクルが定着できていない生徒への対応。</li> <li>学力差がある生徒への対応。</li> <li>追試や補充講座の受講者を減少させるための指導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習を推奨するとともに放課後、学校に残し徹底して指導を行う。</li> <li>試験問題の工夫改善を行うとともに、授業時間内に小テストを実施することで基礎学力の定着を図る。</li> <li>習熟度別授業や個別指導を行い、個々の能力・適性に合わせた学力の向上を図る。</li> <li>STEM教育的問題解決能力を各教科の授業に取り入れる。</li> <li>朝読書を進めるとともに教育講演会等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習や放課後学校に残っている生徒がどの程度いたか。</li> <li>試験問題の工夫改善が行われたか。</li> <li>授業時間内に小テストを実施することで基礎学力の定着が図れたか。</li> <li>習熟度別授業や個別指導により、どの程度成績が伸びたか。</li> <li>STEM教育的問題解決能力を各教科の授業に取り入れられたか。また、その学習効果はどの程度か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全23講座開催。参加人数延227名、考査対策、模試対策、英検対策等、広い範囲で講座が開かれた。</li> <li>試験問題の思考力・表現力を問う問題が多く出題されるよう工夫改善を行った教科が多い。</li> <li>教科によっては、週に3、4回実施し基礎学力の定着を図った。</li> <li>STEM教育的研修会を実施し、問題解決型学習の理解を進めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>講習は各教科計画的に実施できているが、学力推移調査を踏まえた組織的な対応を図ってほしい。</li> <li>今後も授業改善を図るとともに、試験問題の工夫・改善を進め、指導と評価の一体化を図りたい。</li> <li>小テストの実施により、既習事項の定着を図り、基礎学力をしっかりと身に付けさせたい。</li> <li>STEM教育的研修会を踏まえ、問題解決能力を身に付けさせる授業展開を検討したい。</li> </ul>	
4	自己実現を図るための指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫校として6年間を見通した進路指導・キャリア教育の充実を図る必要がある。</li> <li>理科、社会科、美術等のフィールドワークを通して、自分の興味や関心が広がっている。</li> <li>職場体験やボランティア活動等を通して、自己有用感を高める指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートを活用し、中学校から高校までの学びのプロセスを記述し振り返る。</li> <li>フィールドワークにおいて探究的な学習を一層進める。</li> <li>職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの推進。</li> <li>面談を通して一人一人の生徒理解に努める。</li> <li>スクールカウンセラー(教育相談係)と連携しながら、悩みや不安を抱えた生徒に寄り添った支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のキャリア意識や職業観がどの程度高まったか。</li> <li>フィールドワークの実施により、生徒の思考力や判断力・表現力が高まったか。</li> <li>様々な職場体験活動やボランティア活動、等にどの程度参加したか。</li> <li>生徒面談は年間でどの程度実施できたか。</li> <li>スクールカウンセラーや教育相談員の相談件数と不登校生徒の減少数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分発見ノート」や「進路探究ナビ」を活用してキャリア教育の充実を図った。</li> <li>各フィールドワークの事前学習、事後発表等により、生徒の学習意欲の向上や学びを深めることができた。</li> <li>担任は学期に1回から2回程度の面談を通して、生徒理解や問題の早期発見につなげた。</li> <li>相談件数生徒4件、保護者4件。相談までつけないケースがある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校のキャリアパスポートの活用方法を検討し一貫コースの継続したキャリア教育の在り方を検討する。</li> <li>各種フィールドワークは3年間を見通したフィールドワークの枠組みを作る必要がある。</li> <li>職場体験やボランティア等に取り組むよう、検討する。</li> <li>中学生も教育相談やカウンセリングを受けられるよう、保護者、生徒に積極的に周知する。</li> </ul>	
5	豊かな人間性を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の課題や人間関係を把握して予防的な生徒指導に努めている。</li> <li>生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。</li> <li>生徒一人一人の個に応じた指導が必要。</li> <li>明るくさわやかなあいさつ、時間を守ること、心を込めた清掃など、基本的な生活習慣はおおむね整っている。</li> <li>部活動や生徒会活動、委員会活動を充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の観察に努め、深刻な問題に発展しないよう初期段階で諸課題を解決する。</li> <li>部活動を充実させることで、スポーツや文化祭、科学等に親しませ、学習意欲の向上につなげる。</li> <li>文化祭、体育祭、アジア研修旅行など学校行事の充実を図り、中学校への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の問題行動件数が減少したか。</li> <li>学校行事の充実により学校生活に満足感が得られたか。</li> <li>部活動の充実により、生徒の学習意欲が高まったか。</li> <li>様々な学校行事の実施により、中学校への所属感や連帯感を深められたか。また、自主的、実践的な態度を育てられたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の問題行動はなかったが、生徒間の細かいトラブルが起こった。</li> <li>文化祭と体育祭を3年ぶりに開催し、生徒の学校に対する節度意識が高まったとともに、協同性を身に付けることができた。</li> <li>主体的に物事に取り組む意識や、実践的な態度が養われた。</li> <li>部活動加入率は58%であるが、意欲的に取り組んでいた。</li> <li>アジア研修に代わる国内研修旅行を無事に実施した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットトラブルは事前指導を徹底し問題が起きることができた。今後も初期指導と家庭との連絡を密にする必要がある。</li> <li>文化祭ではテーマを決めて発表活動をして一定の成果を上げた。今後も継続してテーマを設定し探究的な学びにつなげてほしい。</li> <li>部活動については活動場所と活動時間等に課題があり、検討する必要がある。</li> <li>従来アジア研修の実施に向けて準備を進めた。</li> </ul>	

学校関係者評価
実施日 令和5年2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>「Bunan Innovation」は良い取り組みだと思うので、積極的に進めてもらいたい。</li> <li>受検勉強に偏らず、じっくり学習指導に取り組んでほしい。</li> <li>英語教育について、苦手意識をもっている生徒が多いのではないかと。特に、中学校3年間については、英語を学ぶ楽しさを中心とした授業展開が必要だと考える。</li> <li>引き続き、他校の優れた授業を見学するとともに、生徒から意見を聞き、授業改善に活かしていただきたい。</li> <li>中高一貫の時間の長さを活かし、6年間でカリキュラムを長期スパンで活用してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は是非、本校(緑園小)との交流ができればと考えている。</li> <li>コロナ禍で難しいが保護者のメール機能を活用し、保護者からの意見を求めてほしい。</li> <li>クリーン作戦の実施発表などは、地域に発信し取り組みなどの積極的な情報発信に努めてほしい。</li> <li>コロナ禍で多くの情報があったが、ホームページ等の発信も他校に比べて格段に多く、保護者としては満足している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業や個別指導等は、私立中ならでの取り組みであり、是非、公立との差別化を図っていただきたい。</li> <li>小テストを繰り返し行うことで、基礎学力の定着が図れるよう引き続き実施してほしい。</li> <li>予習、復習、授業の学習サイクルを定着させ、学力差を少なくするよう取り組んでほしい。</li> <li>長期休業中の講習会参加率がやや低調である。もっと講習会の効果性をアピールし、参加者さらに増やせるよう努めてほしい。</li> <li>カリキュラムはよいので、授業の目的と教員の熱意が授業で生徒に伝わるように努めてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育は重要だと思っており、中高6年間を見通した取り組みを期待している。</li> <li>今後も保護者がスクールカウンセラーに相談できるような体制作りをお願いしたい。</li> <li>相談がある生徒がなかなか相談できない状況もある。相談しやすい環境づくりに努めることが大切。</li> <li>社会、理科フィールドワークや古典芸能の鑑賞は大変素晴らしい取り組みであり今後も続けてほしい。</li> <li>今年度はフィールドワークや国内研修など、様々な場所に実際に向かい、多くの学びを得てよかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動については、練習時間等、難しい点があると思うが、武南ならではの部活動の在り方、スタイルがあっていると思う。</li> <li>部活動の加入率が58%であることはやや寂しい気がする。チームスポーツは人数の縛りがあるが、個人スポーツを奨励し、加入率を上げてほしい。</li> <li>シーズン制を導入し、例え3ヶ月ごとにも違う部活動を継続させるような工夫をしてほしい。</li> <li>LGBT、ネット問題等、子どもの方が先輩を行っている場合もあるので、だめだめと一方的に決めつけず、学校と生徒がお互い学びあってルールを作っていくべき良いと思える。</li> </ul>